
あなた！
この十王星南に
こんな事…
なにが目的!?
絶対に許さない！


ふふ
いつまでその
意気が続くか
見物ですね
ピク
…ッッ♥
ブィ～ン


なっ!?
吸われッ!?
震えてッ!?
ぶるるるるー
ミルミル
くうぅぅ♥


なにを!?やめ♥
やめなさッ♥
ソノクソノク
んんん♥
ブィーン


あッダメッ♥
これッ♥
気をやるッ♥
イヤッ♥
ガクガク
ッ♥ッ♥
こんなッ♥
卑劣な男の前でッ♥
ううッ♥
ブィ～ン


菊門がヒクついていますそろそろ限界のようですね
あッ♥あッ♥あッ♥うううッ♥
ヴヴヴ
ブィ〜ン


ビクン
ンンンンン♥
ヴィーン


学園一のアイドル
十王星南もこうなれば
ただの小娘ですね
あ…くうう♥
ガクガク


ううう
こんな事
お…お爺様が
知れば…
ガクガク
あなた…
きっと
破滅するわ…
うう♥


●REC
いえ…
あなたは
絶対に
言えません
この
一部始終は
撮影しています
ふるふる
ッ！


あなたのこの痴態がネットで広まれば学園長の名にも傷がつくのですから…
ビクーン
そんな…ッ♥このッ♥卑怯もッ♥ううううッ♥
すぢゅ
ミッチ〜ン


そのためにもあなたにはカメラの前で派手にイキ狂っていただきますよ？
あッ♥あッ♥あぁッ♥まってッ♥そこッ♥んんんんッ♥
ずちゅ
ずちゅ
ミィ〜ン


絶頂直後、敏感な
弱い部分を挟むように
膣内から擦り上げられる
ガクガク
ラッ♥ラララッ♥
その圧倒的な
性感により私は早くも
追い詰められた
すちゅ
すちゅ
ミィ〜〜


いやぁ♥
こんなッ♥
簡単にッ♥
クッ
ッ♥
ムリッ♥
堪えきれッ♥
あッ♥あッ♥
いやぁぁぁッ♥
ずちゅ
ずちゅ


ビクン
ビクビクビクビク♥
ビクッ!!
ずちゅ
ずちゅ
ミルミル〜


意思に反して
律動する身体
撮られているのに
絶頂を隠しきれない
くッ♥あああ…
ぶるぶるぶる
まだまだ
これからですよ？
ずちゅ
ずちゅ


まつッ♥
ダメッ♥
クッ
クッ
うぅぅぅ♥
ずちゅ
ずちゅ


その強すぎる性感に
私は悶絶した
いやッ♥
あああッ♥
ガクガク
だがどんなに
もがいても
縄の拘束によって
男の指と器具から
逃れられない
ずちゅ
ずちゅ
ミィ～ン


大きな絶頂の予感を
感じて狼狽する
とめッ♥
あうぅッ♥
このままでは
さらに酷い醜態を
晒してしまう
だろう…
ずちゅ
ずちゅ
ミィ〜ン


なんとしても
堪えたい…
だが男の指は次第に
力を強めていった
クッ
あッ♥あッ♥
あああああッ♥
ずちゅ
ずちゅ
ミィ〜ン
私の我慢は
容易く押し流され
濁流に飲まれた


あぁぁぁぁ♥
ビクン
ビクン
すぢゅ
すぢゅ


ふっふっふ
いいんですか？
学園一のアイドルが
そんな汚らしい声を
あげてしまっても…
あ…ううう…♥
ガクガク
ずちゅ
ずちゅ
ビィ～ン


ちょッ♥調子にッ♥
乗らなッ♥
ううううッ♥
ぶるぶる
いい加減にッ♥
いやッ♥んんんッ♥
ずちゅ
ずちゅ
ミルク〜♪


それから数十分間
私はずっと惨めに
絶頂させられ続け…
心は完全に
折れてしまっていた


もうムリッ♥
許じでッ♥
許じでッ♥
ガクガク
謝りまずッ♥
御免なざいッ♥
あああッ♥
ヴヴヴヴ
ヴヴヴヴ
ずちゅ
ずちゅ


イヤッ♥もッ♥
イギたくッ♥
あうぅッ♥
クッ
ヴヴヴヴ
ヴヴヴヴ
イがざないでッ♥
お願いじまずッ♥
やめッ♥あっ♥
あぁぁぁぁッ♥
ずちゅ
ずちゅ


ビクッ
あうぅぅっ♥
ビクン
ヴヴヴヴ
ヴヴヴヴ
私の意識はそこで途絶えた
ずちゅ
ずちゅ
ミィ〜ン


あ…うあ…♥
ぶるるるー
ヴヴヴヴ
ヴヴヴヴ
気絶したか
だがまだ足りない


この女が
2度とことねに
手を出さないよう
徹底的に調教する
必要がある
そう…ことねを
プロデュースするのは
俺一人で十分なのだから…


K-P
～ことねプロデューサー～
ＥＮＤ